



しでも関心がある」と答えた人を含めると約95%であった。図-4に示す雪谷川の工事前後での水質の変化については約6割の人が「きれい」になったと感じていることがわかった。しかし、代表的な水質項目であるTOCの改修工事前後での変化(図-5:ボックスプロット)をみると、平均値(ボックス内の横線)が改修工事前後であまり変化していない。したがって、多自然型川づくりが流域住民の感じている水質(水のきれいさ)に影響を与え、流域住民の意識と実際の水質との違いを生じさせたといえる。

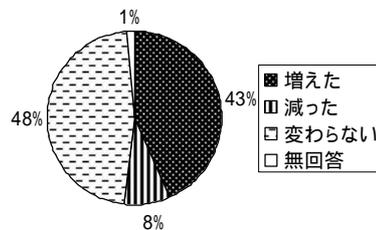


図-2 改修工事前後での利用回数の変化

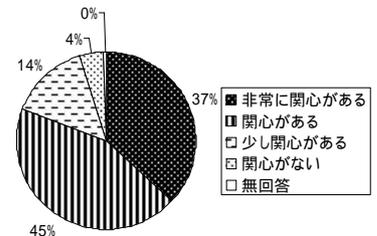


図-3 水質(水のきれいさ)に関心があるか

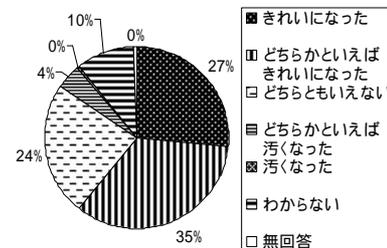


図-4 改修工事前と比べて水質がどのように変化したと感じたか

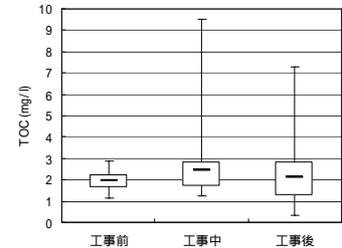


図-5 改修工事前後でのTOC

図-6に示す動植物の変化については「変化があった」という人が約70%であった。項目別(図-7)に見ると、白鳥が飛来してくることから鳥が増えたという人が圧倒的に多かった。魚、植物および水生昆虫については減ったと感じている人が多く、その人たちの感想や意見としては「河川改修工事により環境が画一的になり、瀬、淵、浅瀬、深み等本来の川としての変化がなくなった」や「川岸にもっと植物を植えてほしい」といった内容のものが多かった。しかし、図-8と図-9に示した水生昆虫の種数と個体数を見ると、工事後のほうが種数と個体数ともに高い値を示している。したがって、少なくとも水生昆虫に関しては流域住民が感じているほど減少してはならず、反対に増加しており、流域住民の意識と実際の水生昆虫の生息状況とは異なった。また、全体として視覚的イメージ(白鳥の飛来、景観等)に加えて、心理的イメージ(工事後は自然がなくなる、人工的等)がこのような相違を生じさせたと思われる。この結果から、河川の保全や流域住民への現況報告等による多自然型川づくりの事後評価が継続的に実施されるべきである。

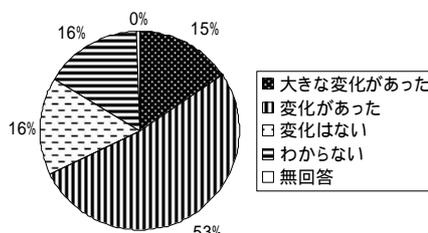


図-6 改修工事前後での動植物の変化

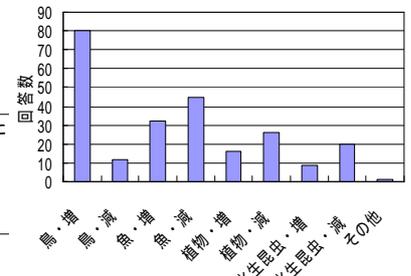


図-7 改修工事前後での動植物の変化項目別回答

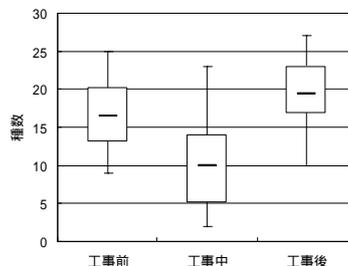


図-8 改修工事前後での水生昆虫の種数変化

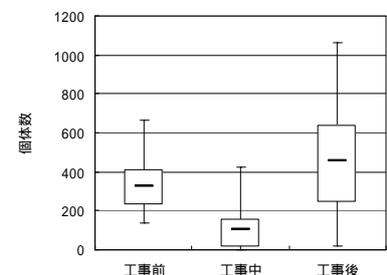


図-9 改修工事前後での水生昆虫の個体数変化

#### 4. まとめ

流域住民が感じているほど水質(水のきれいさ)は変化しておらず、また、水生昆虫も減少してはならず、反対に増加しており、流域住民の意識と実際の水環境の状況とは異なっていた。流域住民の意識として視覚的だけでなく心理的な作用も働いている。

#### <参考文献>

- 1) 岩手県(2003)雪谷川災害復旧日誌資料編
- 2) 内田治著(1992)成功するアンケート調査入門、日本経済新聞社
- 3) 酒井隆著(2001)アンケート調査の進め方、日本経済新聞社